

植民地の視点から英国植民地の脱植民地化プロセスに迫る  
画期的資料群



# Decolonization

The Politics of Independence  
in Former Colonial Territories

# Decolonization

## The Politics of Independence in Former Colonial

### 植民地の視点から見た脱植民地化資料群

世界各地を植民地支配した欧米諸国では第二次大戦後、人文学研究が植民地支配と共犯関係にあった知の枠組として西洋中心主義を厳しく批判しました。この動きは近年では高等教育にも及び、教育カリキュラム自体に潜む西洋中心主義を克服する試みが「カリキュラムの脱植民地化」の掛け声の下で進められています。研究・教育を支える史資料に目を転じると、図書館や文書館は所蔵資料の地域別バランスを見直す必要を早い時期から自覚し、「蔵書資料の脱植民地化」の掛け声の下、旧植民地の史資料の蒐集に乗り出し、蔵書資料の西洋中心主義を克服しようと試みています。「脱植民地化」は植民地の政治的独立という20世紀に実現した歴史的事実だけでなく、旧宗主国の制度や歴史認識に潜む植民地制度の負の遺産を克服する現在進行形の試みとして、今もアクチュアルな課題を突き付けています。本データベースは、英国植民地の独立運動に関する史料群を電子化して提供します。その際、植民地の視点に立った歴史認識に寄与すべく、独立運動を推進した植民地の指導者、政治団体、政党が残した記録を収録することに努めました。収録資料はロンドン大学図書館（コモンウェルス研究所旧蔵）、ロンドン・メトロポリタン大学労働組合同議図書館、オックスフォード大学ナフィールド・カレッジという英国の三つの学術機関の所蔵資料で、いずれも英国の旧植民地の資料蒐集に尽力した機関や個人のコレクションです。

### ロンドン大学コモンウェルス研究所旧蔵政治パンフレット集成

ロンドン大学コモンウェルス研究所（Institute of Commonwealth Studies）は英国旧植民地関係資料の中では特に政治関係の資料が充実しています。同研究所は、アフリカ関係の資料蒐集を推進するイギリスの図書館・文書館連携機関、アフリカ関係図書館・文書館連合（SCOLMA）の加盟館でもあり、連合の中での役割分担として労働組合や政治関係の資料を集中的に蒐集してきました。本コレクションはアフリカに加え、西アジア、南アジア、東南アジア、太平洋地域、オセアニア、カナダ、カリブ海地域を含む60ヶ国以上の政治団体、政党、労働組合の綱領、選挙用マニフェスト、規約、パンフレット、ニュースレター、通信文、ポスター等を収録します。これらは短命印刷物で長期的保存を想定していなかったため、入手が困難なものばかりです。全体で20万ページに及ぶ本データベース最大のコレクションです。資料の大半は多くの植民地が独立を実現した1960年代から70年代にかけてのもので、地域的には南アフリカ、インド、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドが高い割合を占めています。

### ロンドン・メトロポリタン大学労働組合同議図書館所蔵マージョリー・ニコルソン文書

マージョリー・ニコルソン（Marjorie Nicholson）は労働党と近い関係にあった社会主義者で、フェビアン協会植民地局や労働組合同議に勤務した経歴を持ちます。労働組合同議（Trades Union Congress, TUC）は19世紀後半に創設された労働組合の全国組織で、植民地との関係も深く、金銭的支援や労働組合の組織・運営法の伝授という形で植民地の労働者や労働組合の支援活動を行ないました。ニコルソンも植民地の労働組合運動に関する知見を深め、インドのジャワハルラル・ネルー、トリニダード・トバゴのエリック・ウィリアムズ、シエラレオネのシアカ・ステューヴンス、ケニアのトム・ムボヤ、シンガポールのリー・クアンユー、ガーナのクワメ・ンクルマら、後に独立運動の指導者になる人々と交友関係を結びました。収録資料はニコルソンが引退後に蒐集に尽力した資料で、労働組合同議の組織、労働組合同議の国際会議や植民地諮問委員会（Colonial Advisory Committee）の議事録や文書の他、国際自由労働組合同議連盟（International Confederation of Free Trade Unions, ICFTU）、国際労働機関（ILO）、王立西インド委員会（West India Royal Commission）のような労働組合同議と関わりの深い機関の文書、イギリスとコモンウェルス諸国における協同組合運動、植民地の福祉と開発、強制労働、労働組合運動と汎アフリカ主義に関する文書が含まれています。地域別にはアフリカではガーナ、シエラレオネ、カメルーン、ナイジェリア、タンザニア、ケニア、ウガンダ、スーダン、ガンビア、南アフリカ、ローデシア（ジンバブエ）、チュニジア、エジプト、アジアではインド、ビルマ、セイロン、マラヤ、シンガポール、カリブ海地域ではジャマイカ、バルバドス、トリニダード、ガイアナ、バハマ、オセアニアではオーストラリア、ニュージーランドに関する資料が収録されています。イギリス労働組合運動と植民地解放運動の邂逅が生んだ貴重な資料群です。

### オックスフォード大学ナフィールド・カレッジ所蔵アフリカ労働組合文書集成

オックスフォード大学ナフィールド・カレッジ（Nuffield College）はアフリカ関係図書館・文書館連合（SCOLMA）の加盟館として、アフリカの労働組合の資料の蒐集に努めてきました。本コレクションはアフリカの労働組合運動に関する文書、パンフレットを集めたものです。労働組合の会議録、規約、刊行物、新聞記事切抜き、マニフェスト、演説等を含みます。収録年代は1949年から1969年までの期間で、言語は英語とフランス語です。対象の国・地域はケニア、タンザニア、ガーナ、ナイジェリア、カメルーン、シエラレオネ、セネガル、ガンビア、ギニア、ガボン、ウガンダ、ガンビア、スーダン、アンゴラ、ボツワナ、ニヤサランド、バチアランド、スワジランドで、全アフリカ労働組合連合（All African Trade Union Confederation）、ガーナ労働組合同議、ナイジェリア労働組合同議、鉄道アフリカ組合（ケニア）、鉄道アフリカ組合（ウガンダ）、ガーナ鉱山労働者組合、国際自由労働組合同議連盟（ICFTU）等の団体が取り上げられています。

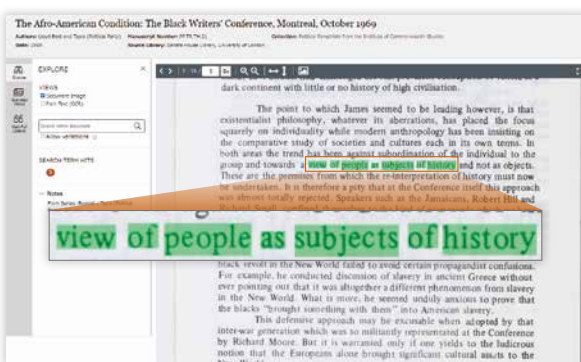
# Territories



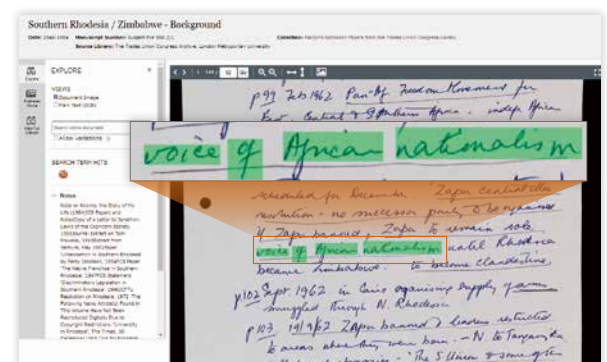
トップページ

Manuscript Number	Document Title	Date
PG.TR.CEF.1	Women in Employment in the Caribbean	[1977]
PG.TR.CEF.2	Equal Wages	[1979?]
PG.TR.CEF.3	"Sick-Outs" and Sick Leave	[1980]
PG.TR.CLS.1	Fight Back with Solidarity: A Statement of Intent	[1981?]
PG.TR.CLS.2	Crisis: The Way Out	1982
PG.TR.CLS.3	CLS Speaks: A Collection of Statements	1987
PG.TR.CLS.4	Race Relations in Trinidad: Some Aspects	1988
PG.TR.NM.1	Don't Stop the Strike: NMB Answers URO's Criticisms of "10 Questions on Socialism": An Address to the New Beginning Movement on June 17th 1976	1976
PG.TR.NM.2	Revolution and Social Development: A Direct Address to the Unemployed of Trinidad and Tobago	1975
PG.TR.NIAC.1	People's Declaration of Policy for the Development of a New Trinidad and Tobago	[1981?]
PG.TR.NIAC.2	Recall the Budget: NIAC's Analysis of the 1981 Budget	[1981]
PG.TR.NIAC.3	NIAC on Free Trade Zones	[1988?]
PG.TR.ONR.1	Statements of Principles: We Must Do Better	[1981]
PG.TR.PFA.1	R.N.M. And the Country	[1962?]

文書番号、文書タイトル、年代を示した一覧ページが設けられ、各文書にハイパーリンクされています



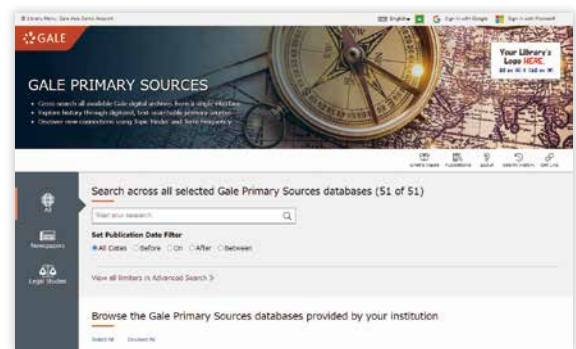
一字一句までフルテキスト検索。検索語はハイライト表示



手稿資料もフルテキスト検索



文書表示画面では手稿文書を含め、文書イメージとOCR/HTRテキストを左右見開きで表示することができます



統合検索プラットフォーム Gale Primary Sources では追加コストなしで導入済の Gale の買切データベースとの横断検索ができます

## データベースの概要

- ◆ **収録文書**：書籍、パンフレット、タイプ打ち原稿、手稿（フルテキスト検索に対応）（約 25 万ページ）
- ◆ **収録資料の期間**：19 世紀末から 2010 年代（大半は 20 世紀半ば）
- ◆ **収録資料の言語**：英語が大半、その他フランス語、英国旧植民地・英連邦構成国の諸言語
- ◆ **原資料所蔵機関**：ロンドン大学図書館（Senate Library）、ロンドン・メトロポリタン大学労働組合会議図書館、オックスフォード大学ナフィールド・カレッジ
- ◆ **機能**：ページ送り、画面拡大・縮小、全画面表示、輝度・コントラスト調整のビューワ機能の他、印刷、PDF ファイルのダウンロード、OCR/HTR テキストのダウンロード、書誌自動生成、書誌情報のエクスポート、メール送信、Google / Microsoft ログインとクラウド連携を実装。別契約のテキストマイニングツール Gale Digital Scholar Lab でもご利用になれます。

## 「ロンドン大学図書館所蔵政治パンフレット集成」収録資料(例)

### ◆ケニア

- ◆ 選挙人連合『ケニア植民地・保護領のための政策概観』(1946)
- ◆ 選挙人連合『ケニア計画』(1949)
- ◆ 選挙人連合『ケニアの土地問題』(1953)
- ◆ フランシス・スコット、選挙人連合『ケニア自治草案』(刊行年不詳)
- ◆ カプリコーン・アフリカ協会『カプリコーン・アフリカ』(1953)
- ◆ デヴィッド・スターリング、カプリコーン・アフリカ協会『英領東中央アフリカ計画』(1959)
- ◆ 『新しいケニアの挑戦：新ケニア党のための政策声明』(1959)
- ◆ 『ケニア・アフリカ人民族同盟 (KANU) 独立・社会民主主義・安定のためのマニフェスト』(1960)
- ◆ ケニア人民同盟『国民宣言：ケニア人民同盟綱領』(1966?)
- ◆ 『ケニア・アフリカ人民族同盟 (KANU)：一つのケニア、一つの国民、前進あるのみ!』(1969)
- ◆ 『ケニア・アフリカ人民族同盟 (KANU) 規約』(1992)
- ◆ ケニアの政治犯釈放のための委員会『ケニアにおける政治的抑圧の手段としての法』(1982)
- ◆ ケニアの政治犯釈放のための委員会『オディンガ・オギンガを釈放せよ』(1983)
- ◆ ケニア解放のための愛国者連合『Mwakenya の民主主義計画』(1991)
- ◆ ケニア解放のための愛国者連合『ケニアの現状に関する Mwakenya の見解』(1992)
- ◆ 全国超同盟連合 (NASA)『ケニアの夢への道：我が党のマニフェストを実行する』(2017)

### ◆ウガンダ

- ◆ ウガンダ人民会議『政策声明：統一、公正、独立』(1962)
- ◆ ウガンダ人民会議、アボロ・ミルトン・オボテ『1968年6月11日の第4回全国代表者会議で採択されたウガンダ人民会議規約』(1968)
- ◆ ベネディクト・キワヌカ、民主党『自由へ：民主党マニフェスト』(1960)
- ◆ ベネディクト・キワヌカ、民主党『民主主義とは何か』(1967)
- ◆ ヨウエリ・ムセベニ『国民抵抗運動の10項目の綱領』(1986)
- ◆ ヨウエリ・ムセベニ『この先の課題に取り組む：選挙マニフェスト』(刊行年不詳)

### ◆タンザニア

- ◆ タンガニーカ民族同盟 (TANU)、ジュリアス・ニエレレ『アルーシャ宣言とタンガニーカ民族同盟の社会主義と自立の政策』(1967)
- ◆ ジュリアス・ニエレレ『独立後タンザニアの10年：タンガニーカ・アフリカ民族同盟党首の報告』(1971)
- ◆ ジュリアス・ニエレレ『タンザニア革命党政府の5年』(1982)

### ◆マラウイ

- ◆ マラウイ会議党『マラウイ会議党年次大会決議集 1965年-1985年』(1985)
- ◆ カムズ・バンダ、マラウイ会議党『党大会での大統領の演説』(1966)
- ◆ 『民主主義同盟 (AFORD) マニフェスト』(1993)
- ◆ 民主主義同盟 (AFORD)、チャクフワ・チハナ『マラウイにおける貧困削減：民主主義同盟院内会派へのチャクフワ・チハナ党首の演説』(1994)

### ◆ザンビア

- ◆ 『統一民族独立党：約束の履行：ザンビアにおける統一民族独立党統治の5年間の輝かしい記録 1964-1968年』(1968)
- ◆ ケネス・カウンダ『同等なる者の国民：カプウェ宣言：統一民族独立党全国評議会での演説』(1973)
- ◆ ケネス・カウンダ、統一民族独立党『未来の挑戦：統一民族独立党全国評議会での演説』(1973)
- ◆ ケネス・カウンダ、統一民族独立党『人民の大義が党の大義である：中央委員会の指針』(1974)

### ◆モザンビーク

- ◆ 『フレリモ：マルセリーノ・ドス・サントスへのインタビュー』(1971)
- ◆ フレリモ (モザンビーク解放戦線) 情報部『モザンビーク革命：1975年6月25日』(1975)

### ◆ジンバブエ

- ◆ アベル・ムゾレワ『アフリカ民族評議会マニフェスト：統一の旗の下に』(1972?)
- ◆ アベル・ムゾレワ『来たれ、共に論ぜん：二つの演説』(1972)
- ◆ ジェイムズ・チケレマ『近年のローデシアの政治・政体状況に関してジンバブエ・アフリカ人民同盟 (ZAPU) からウィルソン英国首相へ提出された覚書』(1964)
- ◆ ジンバブエ・アフリカ人民同盟 (ZAPU)『ジョシュア・アコンゴの声』(1973)
- ◆ ンダバニギ・シトレ、ジンバブエ・アフリカ民族同盟 (ZANU)『ジンバブエは今や自由でなければならない』(1972)
- ◆ ンダバニギ・シトレ、ジンバブエ・アフリカ民族同盟 (ZANU)『生得権の擁護』(1975)
- ◆ ロバート・ムガベ、ジンバブエ・アフリカ民族同盟『同志ロバート・ムガベ大統領、ジンバブエの解放地域への人道支援を訴える』(1979)
- ◆ ゴードン・チャブドツカ『アフリカ民族評議会』(1975)
- ◆ 中央党 (南ローデシア)『中央党の原理と政策の概要』(1974?)
- ◆ ジンバブエ解放戦線 (FROLIZI)『ジンバブエ解放のための政治綱領』(1971?)
- ◆ 愛国戦線 (PF)『土地を人民に！平和と統一、雇用と教育と進歩、権力を人民に！1980年選挙マニフェスト』(1980)
- ◆ 愛国戦線 (PF)『イギリスのランカスターハウス合意破棄に関する覚書』(1980)
- ◆ ジンバブエ・アフリカ民族同盟愛国戦線 (ZANU-PF)『ハラレ国際会議センターでの臨時会議文書・演説集』(1988)
- ◆ ジンバブエ・アフリカ民族同盟愛国戦線 (ZANU-PF)『全国女性連盟会議演説・文書集』(1989)
- ◆ ジンバブエ・アフリカ民族同盟愛国戦線 (ZANU-PF)『選挙マニフェスト 1990年』(1990)
- ◆ ローデシア戦線 (RF)『原理と政策 1962年』(1962)
- ◆ ローデシア戦線 (RF)『原理と政策 1973年』(1973)
- ◆ 統一アフリカ民族会議 (UANC)『ジュネーヴ以後の統一アフリカ民族会議：現在と将来』(1977)
- ◆ ジェイムズ・チケレマ、統一アフリカ民族会議 (UANC)『ローデシアからジンバブエへ』(1977)
- ◆ ジンバブエ・アフリカ人民同盟 (ZAPU)『ジンバブエにおける武装革命闘争』(1973)
- ◆ ジンバブエ・アフリカ人民同盟 (ZAPU)『マスメディアとジンバブエ解放闘争』(1978)
- ◆ ジンバブエ・アフリカ人民同盟 (ZAPU)『マニフェストと政策：新しい民族秩序のための政策総覧』(1999)
- ◆ ジンバブエ統一人民機構 (ZUPO)『原理と政策』(1977)

## ◆ボツワナ

- ◆ボツワナ民主党『ベチュアナランド民主党小史』(1963)
- ◆セレンツェ・カーマ、ボツワナ民主党『国民の基礎を築く』(1982)

## ◆ナミビア

- ◆南西アフリカ人民機構(SWAPO)『SWAPOに関する情報：歴史プロフィール』(1978)
- ◆南西アフリカ人民機構(SWAPO)『SWAPO政治犯に関する情報』(1978)

## ◆南アフリカ

- ◆ジェイムズ・カラタ、アフリカ民族会議(ANC)『ANC小史』(1957)
- ◆ネルソン・マンデラ、アフリカ民族会議(ANC)『我々は告発する：ネルソン・マンデラ裁判』(1963)
- ◆アフリカ民族会議『裁かれる南アフリカ：リヴォニア裁判の蔭で』(1963)
- ◆アフリカ民族会議(ANC)『野蛮な力：南アフリカの刑務所における囚人の扱い』(1963)
- ◆アフリカ民族会議(ANC)『南アフリカの労働組合運動』(1970)
- ◆オリバー・タンボ、アフリカ民族会議(ANC)『権力を人民へ!』(1976)
- ◆アフリカ民族会議(ANC)『南アフリカのアパルトヘイト：植民地主義の特殊類型』(1977)
- ◆アフリカ民族会議(ANC)『75年間の闘争』(1987)
- ◆アフリカ民族会議『服従か、さもなくば闘え!：民族の槍の30年』(1991)
- ◆アフリカ民族会議(ANC)『アパルトヘイトから平和、民主主義、開発へ：1993年2月ヨハネスブルグ国際連帯会議』(1993)
- ◆アフリカ民族会議『ANCと権利章典、1923-1993：70年概観』(1993?)
- ◆アフリカ民族会議(ANC)『アフリカよ、時が来た：90年間の闘争：アフリカ民族会議の歴史1912-2002』(刊行年不詳)
- ◆『ズールー協会憲章』(1939)
- ◆『1948年全アフリカ会議(AAC)議事録』(1948)
- ◆G.H. グール『非ヨーロッパ人統一運動(NEUM)と労働組合』(1951)
- ◆南アフリカ全国学生連合(NUSAS)『トランスカイ概観』(1951)
- ◆南アフリカ全国学生連合『南アフリカにおける人種関係の歴史』(1961)
- ◆南アフリカ全国学生連合『バンツースタン：アパルトヘイトの支柱』(1983)
- ◆南アフリカ学生会議(COSAS)『学びの扉は万人に開かれるべきである：アパルトヘイト教育にNOを!』(1984)
- ◆B.M. キース、南アフリカ教員連盟『世界文明に対する非ヨーロッパ人の貢献』(1953)
- ◆ランウェジ・ネングェクル、南アフリカ学生会議『南アフリカの搾取の強化に対する外国投資の役割』(1977)
- ◆ジェラルド・ゴードン、人権連盟(CRL)『公共治安法案は独裁である：法に反する「革命」はヴィシーの支配と大同小異である』(1953)
- ◆南アフリカ労働組合会議(SACTU)『鎖に繋がれた労働者』(1976)
- ◆南アフリカ労働組合会議(COSATU)『労働者として我々が売っているのは健康ではなく労働である：職場の衛生と安全のための闘い』(2001)
- ◆南アフリカ労働組合連合(FOSATU)、ジョー・フォスター『労働者の闘争：FOSATUの立脚点』(1982)
- ◆ケープタウン大学学生代表評議会『鉱山の虐殺：賃金アップを求めるデモ中に警察に発砲された12人の鉱山労働者』(1973)
- ◆南アフリカ学生会議『白い肌の黒い魂』(1970)
- ◆南アフリカ女性連盟(FSAW)、アフリカ民族会議(ANC)女性部『鎖に繋がれた女性』(1956)
- ◆ベイヤーズ・ノーデ、南部アフリカキリスト教研究所『アフリカーナーと人種関係』(1967)

## ◆アンゴラ

- ◆アンゴラ解放人民運動執行委員会『国連加盟国へのアピール』(1960)
- ◆『アンゴラ解放人民運動第1回国会議』(1962)
- ◆アンゴラ解放人民運動『アンゴラ人民のための10年の闘争』(1967)

## ◆『ボツワナ民主党規約』(1995)

- ◆サム・ヌジョマ、南西アフリカ人民機構(SWAPO)『我々の闘争は個々の少数派の白人入植者に対するものではなく、システムに対するものだった』(1980)
- ◆統一キリスト教監視プログラム(EMPSA)『民主的南アフリカ誕生の証人：1994年EMPSA報告』(1994)
- ◆ブラック・サッシュ『黒人通行制限法と流入規制の適用に関する覚書』(1971)
- ◆シーナ・ダンカン、ブラック・サッシュ『1976年6月にソウェトその他の地域で発生した蜂起に関する調査委員会への覚書』(1976)
- ◆トランスヴァール農村行動委員会、ブラック・サッシュ『自発的移転という神話』(刊行年不詳)
- ◆アザニア人民機構『南アフリカにおける国民とエスニシティ』(1983)
- ◆シリル・ラマポーザ、アザニア人民機構(AZAPO)『なぜ黒人労働組合運動なのか』(1983)
- ◆『アザニア人民機構(AZAPO)小史：一つの人民、一つの国民』(1986)
- ◆『南アフリカ黒人人民会議(BPC)：歴史的背景と基礎文書集』(刊行年不詳)
- ◆南アフリカ反戦レジスタンス委員会(COSAWR)『良心の囚人ピーター・モルに支援の手を』(1981)
- ◆新統一運動『南アフリカ人民への宣言』(1985)
- ◆フィリップ・ウィルキンソン『良心的兵役拒否者』(1986)
- ◆スザンヌ・グリフィン他『インカタと南アフリカにおける自由のための闘い』(1987?)
- ◆『民族文化解放運動、あるいはインカタの規約』(刊行年不詳)
- ◆キャロライン・ウィリアムズ、リーズ開発教育センター(LDEC)『変化の擁護：南アフリカにおける権利、抑圧、応答』(1988)
- ◆統一民主戦線『宣言：我ら、自由を愛する南アフリカの人民』(1983)
- ◆M.W. スパイサー、南アフリカ民主主義研究所(IDASA)『ポスト・アパルトヘイト期南アフリカが直面する経済的選択肢』(1989)
- ◆ヨハネスブルグ民主行動委員会(JODAC)『解放後の国家、政治、民主主義』(1989)
- ◆マイケル・エヴァンズ、5つの自由フォーラム(FFF)『変化する南アフリカにおける白人』(刊行年不詳)
- ◆『南アフリカ伝統的指導者会議(CONTRALES)：自由の夜明け』(1993)
- ◆南アフリカ労働党『労働党と1948年以降の国民党統治の小史』(刊行年不詳)
- ◆南アフリカ自由党『南アフリカ自由党の政策』(1961)
- ◆国民党『国民党の政策』(1994)
- ◆『南アフリカ汎アフリカ会議基礎文書集』(1965)
- ◆ロバート・ソブクエ『シャープヴィル：人民の戦争への序章』(1960)
- ◆アンドリュー・シルク『ロバート・ソブクエ』(1975)
- ◆マシュー・ンコニア、アザニア汎アフリカ会議『革命における危機：南アフリカ汎アフリカ会議特別報告』(刊行年不詳)
- ◆アザニア汎アフリカ会議『一つのアザニア、一つの国民、一つの人民：汎アフリカ会議演説文書集』(1977)
- ◆『あなたの未来を守る：南アフリカ進歩党の原則と政策』(1961)
- ◆ジョージ・サックス、南アフリカ共産党『南アフリカのための共産主義』(1943)
- ◆『統一党の政策：共和国に抗して』(1956)

- ◆『アンゴラ解放人民運動中央委員会全体会議(1976年10月23-29日)文書集』(1976)
- ◆『自由への道：アンゴラ人民共和国建国文書集』(1977)
- ◆アンゴラ全面独立民族同盟(UNITA)国連監視団『UNITA：勝利までの人民の闘争』(1976)

## ◆ ナイジェリア

- ◆ オバフェミ・アウォロウォ、行動党『14項目の綱領』(1959)
- ◆ 『ナイジェリア行動党の規約』(刊行年不詳)
- ◆ オバフェミ・アウォロウォ、ナイジェリア統一党『安定と進歩の憲章：ナイジェリア統一党第2回年次大会での演説』(1979)
- ◆ ナイジェリア国民党『シャガリ：最初の4年』(1983)

## ◆ ガーナ

- ◆ クワメ・ンクルマ、会議人民党『社会主義国家の建設』(1961)
- ◆ クワメ・ンクルマ、会議人民党『社会主義への前進』(1963)
- ◆ 会議人民党『ンクルマ主義に関するセミナー報告』(1962?)
- ◆ エディー・アンパー、K.O. トンプソン、会議人民党『クワメ・ンクルマの涙：会議人民党の興隆』(1964)
- ◆ Z.B. シャードウ『会議人民党党員の権利と義務』(刊行年不詳)

## ◆ インド

- ◆ インド国民会議 (INC)『経済政策と綱領に関する決議集 1924年-1954年』(1954)
- ◆ インド国民会議(INC)『州再編に関する決議集 1920年-1956年』(1956?)
- ◆ インド国民会議 (INC)『言語政策に関する決議集 1949年-1965年』(1965)
- ◆ インド国民会議 (INC)『外交政策に関する決議集 1947年-1966年』(1965)
- ◆ インド国民会議 (INC)『人民の勝利:1971年選挙の分析』(1971)
- ◆ インド国民会議 (INC)『マハトマ・ガンディーのメッセージ』(1972)
- ◆ インド国民会議 (INC)『ネルーの構想』(1972)
- ◆ インド国民会議 (INC)『ネルー・ジンナー書簡集：ガンディー・ジンナー書簡集、ネルー・ナワブ・イスマイル書簡集含む』(1938?)
- ◆ シュリマン・ナラヤン、インド国民会議 (INC)『社会主義経済へ向けて』(1956)
- ◆ サディク・アリ、インド国民会議 (INC)『国民会議のイデオロギーと綱領』(1958)
- ◆ 大衆連盟党 (BJS)、シャヤマ・ブラサド・ムカジー、ディーンダヤル・ウパッドエ『ジャナ・サンガのアプローチ』(1968)
- ◆ インド人民党 (BJP)『ヒューマンイズムの立場からの経済開発へのアプローチ』(1992)
- ◆ インド人民党 (BJP)『GATT 条約：完全なる屈服』(1994)
- ◆ 全インド前進同盟 (AIFB)『双子の敵、権威主義と共産主義に対する反撃：中央委員会の呼びかけ』(1979)
- ◆ 人民社会党 (PSP)『第2回全国大会報告』(1955)
- ◆ 人民社会党 (PSP)『第3回全国大会報告』(1956)

## ◆ スリランカ

- ◆ 全セイロン・タミル会議 (ACTC)『創立会議で承認された規約』(1944)
- ◆ 『スリランカ社会主義平等党 (LSSP) 小史』(1960)

## ◆ マラヤ

- ◆ マレーシア華人協会 (MCA)『25周年 1949年-1974年』(1974)
- ◆ 民主行動党 (DAP)『DAP と文化民主主義』(1968)

## ◆ シンガポール

- ◆ V.R. バラクリシュナ、全国労働組合会議 (NTUC)『シンガポール労働組合運動小史』(1976)

## ◆ オーストラリア

- ◆ オーストラリア労働党『第19回コモンウェルス会議議事録公式報告』(1951)
- ◆ オーストラリア労働党『第23回コモンウェルス会議議事録公式報告』(1959)
- ◆ オーストラリア労働党『第24回コモンウェルス会議議事録公式報告』(1961)
- ◆ オーストラリア労働党『第29回コモンウェルス会議で承認された綱領、規約、規則』(1971)

- ◆ ナイジェリア国民党『シャガリに投票し、民主主義を保証しよう』(1983)
- ◆ ナイジェリア人民党『新しいナイジェリア：ナイジェリア人民党綱領』(1961)

- ◆ 国民自由主義連合『第二共和国作戦：国民自由主義連合マニフェスト：国民を飢えさせない』(1969)
- ◆ 『ガーナ国民民主党マニフェスト』(1980)
- ◆ B.A. ベントゥム、ガーナ労働組合会議『ガーナの労働組合：いかにしてクワメ・ンクルマはガーナの自由な労働組合運動を破壊し、それをアフリカ大陸全体に拡張しようと試みたか』(1966)
- ◆ 『労働組合会議の政策』(刊行年不詳)

- ◆ 人民社会党 (PSP)『第4回全国大会報告』(1958)
- ◆ 人民社会党 (PSP)『第5回全国大会報告』(1959)
- ◆ 人民社会党 (PSP)『第6回全国大会報告』(1963)
- ◆ インド社会党 (SP)『社会主義の建設：インド社会党綱領』(1951)
- ◆ ラマノハール・ロヒア、インド社会党『世界情勢における第三陣営』(1951)
- ◆ アソカ・メータ、インド社会党 (SP)『インドの政治精神：総選挙の結果の分析』(1952)
- ◆ インド共産党 (CPI)『党と国際共産主義運動の統一のために』(1964)
- ◆ インド共産党 (CPI)『インド共産党の歴史の指針』(1974)
- ◆ インド共産党 (CPI)『インド共産党：闘争と前進の50年』(1975)
- ◆ アルデンドゥ・ブーシャン・バルダン、インド共産党 (CPI)『インド共産党の70年』(1995)
- ◆ E.M.S. ナンブーディリーバード、インド共産党マルクス主義派 (CPIM)『ケララ州における共産主義に対する集団攻撃』(1970)
- ◆ ジョティ・バサー、インド共産党マルクス主義派 (CPIM)『西ベンガルにおける議会制民主主義の転覆』(1972)
- ◆ ハルキシヤン・シン・スルジート、インド共産党マルクス主義派『インド共産党マルクス主義派とインド共産党の差異について』(1986)
- ◆ スワタントラ党『質問に答える』(1966?)
- ◆ M.R. マサニ、スワタントラ党『予算対人民』(1965)
- ◆ 民族義勇団 (RSS)『RSSの鳥観図』(1978)
- ◆ 民族義勇団 (RSS)『第二の自由の闘争の最前線に立つ RSS』(1979)
- ◆ 民族義勇団 (RSS)『民族再生の先頭に立つ』(1985)

- ◆ スリランカ共産党『スリランカ共産党の25年 1943年-1968年』(1968)
- ◆ タミル・イーラム解放のトラ (LTTE)『裏切られた民族：解放のトラのインド・スリランカ協定批判』(1988)

- ◆ リム・キッシャン、民主行動党 (DAP)『DAP と労働問題：英国の新聞が報じなかったこと』(1976)
- ◆ マラヤ共産党『マラヤ共産党万歳！結党50周年を祝して』(1980)

- ◆ オーストラリア労働党『第26回コモンウェルス会議議事録公式報告』(1965?)
- ◆ オーストラリア労働党、M.J. ヤング『オーストラリア労働党の歴史と目的』(1972?)
- ◆ オーストラリア労働党、クライド・R. キャメロン『すべての労働者のための賃金の平等、雇用機会の均等、最低賃金保障の擁護』(1973)
- ◆ オーストラリア労働党、スーザン・ライアン『オーストラリア労働党とオーストラリアの女性』(1978?)
- ◆ オーストラリア労働党、ビル・ヘイドン『オーストラリア労働党と女性の地位：平等に向けて』(1983?)
- ◆ オーストラリア労働党クイーンズランド支部『オーストラリア労働党の歴史と組織』(1983)
- ◆ オーストラリア労働党『未来のための基礎：移民、民族問題、多文化主義に関するオーストラリア労働党の政策』(1990)
- ◆ オーストラリア労働党『多文化的オーストラリア』(1996)
- ◆ オーストラリア労働党『労働党連邦政府の環境政策の成果 1983年-1996年』(1996)
- ◆ ジョン・ドーキンス、ボブ・ホーク『労働党の中小企業政策』(1983)
- ◆ 『オーストラリア地方党の基本的目標と全国政策』(刊行年不詳)
- ◆ 地方党、ジョン・マクエヴァン『オーストラリア政治における地方党の役割』(1968)
- ◆ オーストラリア国民党、T. マクベイ『脅威に晒されるオーストラリアの農村』(1983)

### ◆ ニュージーランド

- ◆ デヴィッド・ウィルソン、M.J. サベジ、ニュージーランド労働党『現在進行形の歴史：ニュージーランド史上初の労働党政権 1年目の立法と行政活動概要：1935年11月27日から1936年11月26日まで』(1937)
- ◆ イギリス労働党『社会主義の下でのニュージーランドの進歩』(1937)
- ◆ ピーター・ベイツ、ニュージーランド労働党『労働党の40年：ニュージーランド労働党 1935年-1975年』(1975)
- ◆ 『労働党の教育政策：教育への投資』(1996)
- ◆ 『労働党の環境政策：持続可能な開発の達成に向けて』(1996)
- ◆ 『労働党のマオリ政策：真のパートナーシップ』(1996)
- ◆ 新労働党、ジム・アンダーソン『ニュージーランドのための公平とバランス：新労働党の経済に関する声明』(1989)

### ◆ カナダ

- ◆ カナダ自由党『自由党の政策はすべてのカナダ人により良い生活をもたらしている』(1957)
- ◆ カナダ自由党『カナダにおける自由主義の物語』(1958)
- ◆ カナダ自由党『自由党政策声明』(1968?)
- ◆ ポーリン・ジュウェット『カナダの自由主義：その哲学』(1968?)
- ◆ カナダ自由党『自由党の歴史』(1968?)
- ◆ カナダ自由党『党大会で修正されたカナダ自由党規約』(1970)
- ◆ トランス・J・ワイリー『自由党の構造と目的』(1972)
- ◆ カナダ自由党『カナダ：我々の未来：1978年党大会決議報告』(1978)
- ◆ カナダ自由党『カナダ首相ピエール・エリオット・トルドー：伝記』(1979)
- ◆ カナダ自由党『1980年党大会で可決された政策決議集』(1980)
- ◆ ピエール・エリオット・トルドー、カナダ自由党『1980年代の5つの主要な政策コミットメントに関するトルドーによる概略説明』(1980?)
- ◆ ジャック・オースティン『カナダ民主主義のテーマ』(1981)
- ◆ カナダ民主党『カールトン会議報告』(1981)
- ◆ 『カナダ自由党：その哲学と歴史』(1985?)
- ◆ カナダ自由党『カナダ自由党の改革に関する総裁委員会最終報告書』(1985)
- ◆ カナダ自由党『1986年党大会総会で可決された政策決議集』(1986)
- ◆ カナダ自由党『外交政策便覧』(1993)
- ◆ ジョン・ディーフェンベーカー、カナダ進歩保守党『新しい国の政策：演説に見る進歩保守党の政策』(1957)
- ◆ カナダ進歩保守党『2年間の大いなる成果』：進歩保守党政権の成果の概要 1957年-1959年』(1959)

- ◆ 『オーストラリア国民党小史』(刊行年不詳)
- ◆ オーストラリア自由党『共産主義に関する事実』(1949)
- ◆ オーストラリア自由党『最初の10年：メンジース政権 1949年-1959年』(1959)
- ◆ W.H. アンダーソン、オーストラリア自由党『思い出す時代：社会主義との闘い』(1962?)
- ◆ マルコム・フレイザー、オーストラリア自由党『労働党と国庫補助』(1972)
- ◆ マルコム・フレイザー、オーストラリア自由党『政府と人々』(1975)
- ◆ オーストラリア自由党、地方党『自由党・地方党連立政権とともに前へ』(1974)
- ◆ オーストラリア自由党『連邦主義と自由の哲学』(1978)
- ◆ オーストラリア自由党『13年後：いかにして労働党はオーストラリアを破綻させたか』(1996)
- ◆ マルコム・フレイザー、オーストラリア自由党、地方党『政策演説：灯火をつける』(1975)
- ◆ 『オーストラリア民主党政務文書 第1部』(1978)
- ◆ 『オーストラリア民主党政務文書 第2部』(1979)
- ◆ 『オーストラリア民主党政務文書 第3部』(1980)
- ◆ オーストラリア権利連盟 (ALR) 『オーストラリア権利連盟：神と女王と国のために』(刊行年不詳)
- ◆ E.A. ベイコン、オーストラリア共産党『オーストラリア共産党戦後史概観』(1964?)
- ◆ オーストラリア共産党『オーストラリアにおける経済危機』(1971)

- ◆ ニュージーランド国民党『成果の記録：国民党政権の業績 1949年-1957年』(1957)
- ◆ ニュージーランド国民党『国民党ハンドブック』(1960)
- ◆ ニュージーランド国民党『電光石火の年間：1975年11月29日以来の国民党の成果の記録』(1978)
- ◆ ニュージーランド公務員組合『労働組合における女性』(1976)
- ◆ ニュージーランド公務員組合『新技術と女性の雇用』(1981)
- ◆ ニュージーランド共産党『ニュージーランドの社会主義への道：ニュージーランド共産党綱領』(刊行年不詳)
- ◆ ヴィック・ウィルコックス、ニュージーランド共産党『ニュージーランド共産党の断固たる態度』(1963-1971)
- ◆ 『アオテアロア共産党指針』(1975-1979)

- ◆ カナダ進歩保守党『カナダとカナダ人のための4年間の行動』(1961)
- ◆ アラン・C・ケアンズ、カナダ進歩保守党『カナダの選挙制度と政党制度 1921年-1965年』(刊行年不詳)
- ◆ カナダ進歩保守党『1957年6月から現在までのジョン・ディーフェンベーカー首相の進歩保守党政権の成果の最新概要』(1961?)
- ◆ カナダ進歩保守党『幹部会議概要 1927年-1967年』(1967)
- ◆ デニス・スミス、カナダ進歩保守党『大統領と議会：カナダにおける議会制の変容』(1969)
- ◆ フローラ・マクドナルド、カナダ進歩保守党『選挙制度と政党の改革』(1969)
- ◆ ジョー・クラーク、カナダ進歩保守党『新しいカナダを作る：ジョー・クラーク演説抜粋』(1977)
- ◆ カナダ進歩保守党『ピエール・エリオット・トルドーの記録：破られた約束』(1979)
- ◆ カナダ進歩保守党『カナダのための新しい指針：進歩保守党の原則』(1979-1980)
- ◆ カナダ進歩保守党『トルドー狂からトルドー嫌いへ』(1982)
- ◆ カナダ進歩保守党『成果の記録：マルルーニー政権 1984年-1986年』(1986)
- ◆ カナダ進歩保守党『党首選概要 1927年-1967年』(1967?)
- ◆ ジョン・マンロー『進歩保守党の起源』(1972)
- ◆ 『カナダ労働会議 (CLC) の国際的責任』(1957)
- ◆ 『カナダ労働会議 (CLC) の原則と政策』(1971?)
- ◆ カナダ労働会議 (CLC)、オンタリオ労働連盟 (OFL) 『70年代の民主社会主義』(1973)
- ◆ オンタリオ労働連盟 (OFL) 『政策概要 1957年-1972年』(1973)
- ◆ 『ケベック自由党』(1971)
- ◆ ケベック自由党『新しい行動計画』(1973)

- ◆ ケベック自由党『ブラッサ政権、2年後』(1972)
  - ◆ クロード・ライアン、ケベック自由党『明日の自由社会』(1980)
  - ◆ ケベック党『簡約ケベック党』(1971)
  - ◆ ケベック党『ケベック党政府は約束する：公式綱領』(1973)
  - ◆ ケベック連合『ケベック連合の歴史の主要な出来事』(1993)
  - ◆ リュシアン・ブジャール『ケベック連合党首リュシアン・ブジャールのカナダクラブでの演説』(1990)
  - ◆ 協同連邦党 (CCF)、カナダ社会民主党『協同連邦党結党 25 周年記念アルバム』(1957)
  - ◆ 協同連邦党 (CCF)『協同連邦党の勃興』(刊行年不詳)
  - ◆ 協同連邦党 (CCF)『社会化医療：カナダのための計画』(1976)
- ◆ **ジャマイカ**
- ◆ ノーマン・ワシントン・マンリー、リチャード・スタフォード・クリプス、H.P. ジェイコブス、人民国民党 (PNP)『このジャマイカ』(1938)
  - ◆ 人民国民党 (PNP)『PNP25 周年 1938 年-1963 年』(1963)
  - ◆ 人民国民党 (PNP)『原則と目的』(1976)
- ◆ **トリニダード・トバゴ**
- ◆ 人民国民運動 (PNM)『人民憲章：1956 年 1 月 15 日の創立大会で採択された基本的原則の声明』(1966)
  - ◆ エリック・ウィリアムズ、人民国民運動 (PNM)『連合：二つの公開講義』(1956)
  - ◆ エリック・ウィリアムズ、人民国民運動 (PNM)『トリニダード・トバゴ首相、人民国民運動指導者の第 14 回年次大会での演説』(1972?)
- ◆ **バルバドス**
- ◆ バルバドス労働党『1951 年から 1981 年までのバルバドス労働党の歴史：見違えるようになった 30 年』(1981?)
  - ◆ バルバドス労働党『交わした誓約、果たした誓約：誓約と成果 1981 年-1986 年』(1986)
- ◆ **ガイアナ**
- ◆ 人民進歩党 (PPP)、チェディ・ジェーガン『ガイアナの独立のための PPP の闘争』(1966)
  - ◆ 人民進歩党 (PPP)、チェディ・ジェーガン、モーゼス・ナガムトゥー『ガイアナにおける出版の自由の状態』(1980)
  - ◆ 人民進歩党 (PPP)『ガイアナにおける人権侵害』(1982)
  - ◆ 人民進歩党 (PPP)『民族統一への道』(1983)
  - ◆ 人民進歩党 (PPP)『ガイアナにおける食糧危機』(1984)
  - ◆ 人民民族会議 (PNC)『人民民族会議の立法の記録 1957 年-1961 年』(1961)
- ◆ 新民主党 (NDP)『新党綱領草案』(1961)
  - ◆ 新民主党 (NDP)『新党規約草案』(1961)
  - ◆ 新民主党 (NDP)『1961 年-カナダ政治の歴史的年』(1961)
  - ◆ 新民主党 (NDP)『カナダの将来の道』(1965)
  - ◆ 新民主党 (NDP)『10 年：大会雑誌 1971 年 4 月 21-24 日』(1971)
  - ◆ 新民主党 (NDP)、アン・スコットン『新民主党の政策 1961 年-1976 年』(1976)
  - ◆ オンタリオ新民主党『新民主党：結党の物語』(1965)
  - ◆ カナダ共産党 (CPC)『結党 50 周年記念シンポジウム：カナダ共産党の思想と行動』(1971)
  - ◆ カナダ共産党 (CPC)『図版で見るカナダ共産党の 50 年』(1971)
- ◆ 人民国民党 (PNP)『民主社会主義：ジャマイカモデル』(1976)
  - ◆ ジャマイカ労働党 (JLP)『ジャマイカ繁栄への民主的な道：ジャマイカ労働党改正規約』(1961)
  - ◆ ジャマイカ労働党 (JLP)『JLP 1943 年-1978 年：権利の平等と正義のために自由の鐘を鳴らし続けて 35 年』(1978)
- ◆ 民主労働党 (DLP)『民主労働党の政策案内』(1961)
  - ◆ 全トリニダード砂糖農園・工場労働者組合 (ATSEFWTU)『規則集』(1960)
- ◆ 民主労働党『1955 年-1965 年：10 年間の貢献』(1965)
- ◆ 人民民族会議 (PNC)『新しい道』(1964)
  - ◆ フォーブス・バーナム、人民民族会議 (PNC)『社会主義による経済的解放：第 2 回党大会での演説』(1977)
  - ◆ フォーブス・バーナム、人民民族会議 (PNC)『新しい世界を建設するために：第 6 回非同盟諸国会議での演説』(1979)
  - ◆ ガイアナ人権協会『ガイアナ世界人権宣言ハンドブック』(刊行年不詳)
  - ◆ ウォルター・ロドニー、労働者同盟『ガイアナの労働者階級の誕生と 1840/41 年と 1847 年の最初の砂糖ストライキ』(1989)

※上記の国・地域の他、アフリカ (ガンビア、シエラレオネ、ザンジバル、ローデシア・ニヤサランド、スワジランド、レソト、モーリシャス、セーシェル)、地中海 (ジブラルタル、マルタ、キプロス)、西・南アジア (アデン、パキスタン、バングラデシュ)、東アジア・太平洋 (香港、サバ、フィジー、バプアニューギニア、バミューダ諸島、ソロモン諸島、西サモア、ニウエ、クリスマス島)、カリブ海沿岸・大西洋 (ドミニカ、グアドループ、ベリーズ、アンティグア・バーブーダ、カリブ海沿岸、西インド諸島、セントビンセントおよびグレナディーン諸島、バハマ、タークス・カイコス諸島、英領ヴァージン諸島、セントクリストファー・ネイビス、グレナダ、セントルシア、モントセラト、マルティニーク、オランダ領アンティル、セントヘレナ、フォークランド諸島)、国際機関の資料が収録されています。



すべてのコンテンツと機能をお試しいただける無料トライアルをご提供しております。

商品に関するお問い合わせは、センゲージャーニング株式会社までお願いします。

Tel: 03-3511-4390 E-mail: GaleJapan@cengage.com URL: www.gale.com/jp